

2023

11.15 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_8lSK2l0jRjeRIGHKMNDqcw](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_8lSK2l0jRjeRIGHKMNDqcw)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 廃棄物を循環資源とする 持続型環境技術の開発

司会：銭 琨 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



## Key Words

廃棄物

循環資源

処理

有効利用

持続型環境技術

## 島岡 隆行 教授

九州大学 工学研究院 環境社会部門 水・資源循環システム学



京都府の出身です。1989年3月、九州大学大学院工学研究科博士後期課程水工土木学専攻を単位修得の上、退学しました。1989年4月、工学博士の学位を取得しました。1991年4月より福岡大学工学部助教授、2001年4月より九州大学大学院工学研究院の教授を務めています。その他、ニューハンプシャー大学(1999-200)、ハルピン工業大学(2004-)、同濟大学(2006-2009)、青島理工大学(2015-)の客員教授、土木学会副会長(2016-2017)、廃棄物資源循環学会会長(2016-2017)を務めました。埋立廃棄物の生物・物理・化学・鉱物学的安定化及び物質移動に関する研究に従事しています。博士学位を受けた多数の留学生がアジア諸国で活躍しています。廃棄物学会論文賞(1997)、廃棄物資源循環学会論文賞(2010)を受賞しました。主な著書は「資源循環再生学」「災害廃棄物」「東アジア環境学入門」です。

不均質で排出量の変動も大きい廃棄物の処理や有効利用においては、「持続型環境技術」が世紀を超えて用いられる環境技術と考える。持続型環境技術は、①自然の摂理に技術の基礎を置いている。②技術の機構が明快であり、外部要因の変動を受けにくく、普遍的かつ確実に機能する。③環境負荷、エネルギー、経済等の視点から持続型社会の構築に大きく寄与する。を要件とする技術と定義づけられる。都市ごみの焼却残渣が処分された埋立地の廃棄物地盤に見出した普遍的に生じる諸現象を循環資源化のための技術へと展開した事例を紹介する。